

いつ 2012.02.04 (土) 下部曇り、上部猛烈な吹雪
どこ 北八ッ・蓼科山(2530m)
コース 女神茶屋～蓼科山～女神茶屋
だれ 後藤隆徳、浜道久美子
きぼ 上り 女神茶屋約1725m～蓼科山2530m＝約805m
下り //

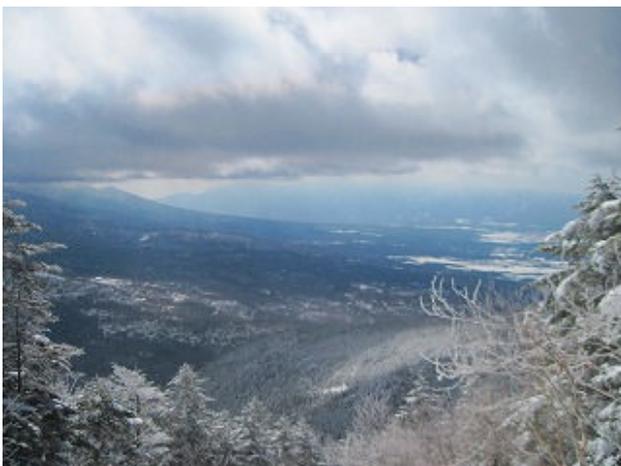


1. 女神茶屋発 9:05

「蓼科山は誰でも上れる初心者の雪山」とリーダーの話だ。スキーには訪れた事があるが、初心者の私が登れるか、半信半疑だった。しかし、リーダーのポリシーは、「上れない人は連れて行かない」だった。信じて行くしかない。遠くからみた蓼科山は頂上に黒雲がかかり危うい感じだった。

2. 2200m付近 11:08

遅い出発だった為「トレースが在り有り難い」とリーダー。その分体力温存、時間短縮ができること。なだらかな熊笹の小道だった所、急な岩場でごつごつした沢だった所、全てを雪が覆っている。「雪山には道が無く、足に優しい」とリーダー。どこを歩いても良い。純白な雪は美しい。美しい程、優しく捕われる。気を付けて足場を確認し黙々と上る。ストックを持つ腕が疲れる。以前、スキーでゲレンデの際から道路にターンをし損ねて4m位滑落した経験がある。車が来てなくて幸いだったがアイスバーンは恐いことを身をもって知っている。慎重に足を運ぶ。



3. 頂上直下 12:00

森林限界地点の手前で登山者たちが何やら準備をしている。私もリーダーに指示され、顔が出ている部分を出来るだけ少なくするようにした。これから何が起こるのだろうか? 「風が強い」との事。雪山で吹雪の経験は取り敢えずあるのだが、半端でない猛烈吹雪。匍匐前進に近い体勢で地に這わないと身体を奪われてしまう位の威力だ。風速どの位だろう? ゴーと大きな音。小さな氷を含んだ強風が顔を叩きつける。痛い。



4. 蓼科山頂上 12:25

猛吹雪が吹雪程度になった。どうやら頂上らしい。登山者は何人かいたがいつのまにかいない。後で知ったことだが蓼科山の頂上は絶景との事。残念な事に私は顔も上げられず、周りを見る余裕はなかった。

5. 下山 12:55

頂上を後にさっさと下山する。さっきの猛吹雪のポイントを通り抜けなければならない。とにかく通らないと帰れない。腹を括ってリーダーに付いていく。疲労が増してきた。気持ちは要注意なのだがアイゼンが絡み全身バツタリ！あの猛吹雪の中やってしまった。何とか身体を起こし、低姿勢のまま維持しながら下る。命からがらはこれに近いのだろうか？それを過ぎてからもアイゼンを絡ませ躓く。装備に慣れると云う事も大切な事と痛感した。しかし、下山はカモシカのような感じ。「ど素人」の私が山下りごぼう抜き10名の快挙でした。(笑)



6. 駐車場着 13:55

やっと無事に戻って来た。嬉しい一言です。リーダーにはご苦労を掛けました。有難うございました。感謝しております。

【報告者・編集後記】

「富士山で雪遊び」をやってみたくて、参加の意向をお願いしていたのですが、一人だけの参加を知らされ、そして山域変更を当日知らされました。(メールで示唆はあり)
呑気に何も分かっていなかったから登れたと思っております。途中でリーダーに叱咤され「もう嫌だとか、疲れたとか思っていると登れない」その通りと思います。見透かされていて本当に恥ずかしかったですが気持ちが集中していなかったのは事実です。また、私は最初に述べましたように「ど初心者」です。装備から分からずリーダーに大変お世話になりました。基本的な事を勉強しないで出掛けた自分に本当に呆れています。結果的には願っても経験できない事が出来 リーダーには大変感謝しております。帰宅して、ビールを口にして出た言葉が「あゝつかれた〜」と何度言ったか！本当に疲れしました。後藤リーダーも「ど初心者」相手にさぞかしお疲れになられたと思います。今度は天気の良い時に会員の皆さんと楽しく行きたいものです。その時は宜しくお願い致します。

【リーダー・編集後記】

毎年、誕生月の2月は気の利いた山に上るように努めている。2011年は西岳～編笠山、10年は硫黄岳、09年は赤岳、08年は檜洞丸、07年は北ア・輝山(てらしやま)など。

一口に冬山と言っても、11～12月の積雪期、1～2月の厳冬期、3～5月の残雪期と分類される。中でも正に厳しい雪山は2月の山。厳しく困難な山だが、その時期に上ることは、体調・意志・気力が十二分に備わっていないと難しい。

今回の蓼科山は雪山としては、初心者の山。標高差は少なく、危険な場所はない。好天なら展望は素晴らしく、達成感は最高に感じられる。ただ、そこは2月の山。特に今年は冬型が厳しく寒気が払拭されないとなかなか好天は望めない。下界はいい天気でも、お山は「しぐれ」が多い。

今回はそんな感じだった。女神茶屋駐車場は満車。やっと1台分確保して車を押しこむ。車は約20台。1台平均3名で約60名の登山者。この山の人気が見えた。それにしてもスッキリしないこの天気であるが、皆さん全くひるむ様子はない。半分くらいは女性だった。いい装備でバッチリ決まっている。ほとんど京浜方面である。「山ガール」は夏だけと思いきや、そうでもなかった。

同行のHさん、初本ちゃんの雪山。本来、富士山の雪遊びの予定だったが蓼科山になった。雪遊びと、蓼科山では雲泥の差がある。でも、2人なら少々何かあっても面倒はみれる、また山頂に上れる雪山選択で、ここに決めた。ここは、持ち前のバイタリティーで乗り切るしかない。

途中で疲れた表情だったので荷物が重い？とチェック。慣れない方はどうしても余分な物を持参する。何点か私のザックに納めた。それから速い速い。グングン上って行く。聞けば下界でも歩くのが速いという。

頂上に達したが、荒天で、展望はゼロ、喜びゼロ、感動はゼロ、苦しさ100点満点で最悪の様子。まだ、与えられた状況の中で楽しむ余裕は無かったようだ。ただ、これも登山の一端でしょう。60名ほどの登山者は女性も多く、嬉々と上っていました。今後、荒天なら荒天の楽しみ方を模索です。

ともあれ、ひとつの試練は終わりました。今回の登山が、今後更なる飛躍につながる糧になることを、節に願う次第です。ご苦労様でした。合掌。

以上